

タイ国大洪水に関わる医療支援活動についてのご報告

2011年12月22日

日本腎臓学会理事長 榎野博史

日本透析医学会理事長 秋澤忠男

2011年7月に発生し3か月以上続いた洪水により、タイ国においては北部から首都バンコクのある中部に至るまで広範囲に浸水などの深刻な状況が出現し、これまでに700名以上の死者を出すとともに、いまだ完全に浸水がおさまっておらずタイ国民の生活や健康に大きな影響を及ぼしていると考えられます。

日本腎臓学会並びに日本透析医学会では10月の時点で洪水が一向に引く気配が無くさらに拡大するとの報道を受け、タイ国腎臓学会にお見舞いと義援金の申し出を行いました。これに対してタイ腎臓学会前会長のKriang Tungsanga氏から10月28日付の返信があり、「タイには3万人以上の透析患者がおり、1カ月くらいで人工透析に必要な透析液と生理食塩液が枯渇する恐れがある。必要な量は、1L入り生理食塩液100万本、透析液20万ガロンと予想され、日本からの現物支援を期待したい」旨、記されておりました。

これを受けて日本腎臓学会と日本透析医学会は、タイにおける透析医療への支援のために、それぞれ100万円の義援金の寄付を決定するとともに、必要な物品を送るよう手配を始めました。幸い、扶桑薬品工業株式会社をはじめとする企業から1L入り生理食塩液15万本を無償提供、船舶による輸送については日本郵船株式会社が無償でご協力いただけることになり、通関や医薬品援助に関わる手続きの簡素化については外務省並びに厚生労働省に多大なご尽力をいただきました。また、タイ側の受け入れ組織としてタイ政府医薬品機構(GPO: Government Pharmaceutical Organization)が窓口となり、このたび大量の生理食塩液の無償援助が実現する運びとなりました。具体的な出荷は、12月8日と12月16日に扶桑薬品工業からそれぞれ51,200本(合計102,400本)完了しており、残り47,600本については大塚製薬工場株式会社、テルモ株式会社および光製薬株式会社の3社からの無償提供により2012年初頭に行う予定です。2011年12月28日にバンコクにおいて、引き渡し式が開催される予定です。なお、当初併せて支援要請がありました透析液については、タイ国で使用している透析機器と適合しないことが判明し、今回の医療支援では生理食塩液のみの支援になりました。

このたびの医療支援活動につきましては、日本腎臓学会と日本透析医学会が日本側窓口となり、扶桑薬品工業株式会社はじめ民間企業のご支援、日本郵船株式会社のご援助、更には外務省、厚生労働省のご尽力、という連携なしには実現し得なかったものです。改めて関係者の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、今回の医療援助がタイ国において洪水で被害を受けられた透析患者さんの治療に有効に役立ち、両国の友好が一層深まることを心から願う次第です。